

## 令和元年度 第2回尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 議事概要

日時：令和元年10月21日（月）14：00～16：30

会場：関東地方環境事務所 会議室

### ■事務局挨拶：関東地方環境事務所 田村次長

尾瀬・日光国立公園の貴重な植生に影響を与えているニホンジカへの対策を強化するため、本年8月に尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会を設置した。本年9月の尾瀬サミットにおいてもシカ対策の強化について関係各所より様々なご意見を頂戴した。

本日は有識者、関係機関の皆さまから各地のシカ対策の事例等を報告いただくとともに尾瀬・日光シカ対策方針の骨子について、皆さまと議論させていただきたい。

### ■議事：進行 関東地方環境事務所 田村次長

#### (1) 有識者等からの発表

- ・「関東山地ニホンジカ広域協議会の現状と課題」

株式会社野生動物保護管理事務所 奥村忠誠 部長

- ・「栃木県における捕獲データの集計と活用及び八溝山系における広域連携」

栃木県環境森林部自然環境課 丸山哲也 副主幹

- ・「広域連携におけるモニタリングデータの活用」

広島修道大学人間環境学部 奥田圭 助教

#### (2) 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（骨子）について

#### (3) その他

#### (1) 有識者等からの発表

##### (1) - 1

- ・「関東山地ニホンジカ広域協議会の現状と課題」

株式会社野生動物保護管理事務所 奥村忠誠 部長

### ■質疑応答

#### ○関東地方環境事務所

- ・ スライド中 P9 に目標捕獲頭数の設定についての話があったが、全体の目標頭数はスライド中 P10 の個体数推定から設置していると推測する。捕獲頭数の地域への割り振りを実施しているのであれば教えていただきたい。
- ・ スライド中 P13 の捕獲困難地域での捕獲の試行について、具体的にどういった手法でこない、どういった成果があがっているのか教えていただきたい。

○奥村部長

- ・ 捕獲目標頭数の割り振りは現在おこなっていない。密度マップをみてある程度の計算はできるが、これまでの取り組みとして指定管理鳥獣捕獲等事業の無い中で、当時事務局側から捕獲頭数を決めて各県に実行していただくのは難しいという意見があった。
- ・ 捕獲困難地域での捕獲については、尾瀬ヶ原・尾瀬沼もそうだが、徒歩でしか入れない場所になるので、忍び猟等の単独捕獲となる。単独とはいってもひとつの地域に射手の他、安全管理要員を数名つけて捕獲を実施する。これまであまり捕獲が実施されていない場所であることから、シカが集まっている場所をある程度見つけられればそれなりの成果が出せる。継続的に捕獲を行うことでシカがスレてくることも考えられるので、今後この手法を各県でやっていただければ人材育成も課題となってくる。

(1) - 2

- ・ 「栃木県における捕獲データの集計と活用及び八溝山系における広域連携」

栃木県環境森林部自然環境課 丸山哲也 副主幹

■質疑応答

○関東地方環境事務所

- ・ 最後2枚のスライド（福島・栃木・茨城3県の連携捕獲協議会・生息状況調査取りまとめの図）について、事務局はどかが担っているのか。またそのようになった経緯を教えてください。
- ・ 3県に渡る糞塊密度調査のデータ取りまとめ主体や経費はどのようになっているのか。

○丸山副主幹

- ・ 協議会の設立を栃木県が働きかけたことから、本年度は栃木県が事務局を担っている。
- ・ 指定管理鳥獣捕獲等事業費の交付対象事業一覧における「①実施計画策定等事業」を活用している。データ取りまとめも含めて委託事業として実施している。それを活かして今後の計画を事務局で進めていく予定である。

○関東地方環境事務所

- ・ スライド中P13の考慮すべき点について、市町村・従事者の理解が必要とある。当初導入時の猟友会や市町村の反応はどのようなものだったか。
- ・ 反対意見についての調整はどのように進められたのか。繰り返し丁寧に進めたということだが、どれぐらい時間がかかったか等わかれば教えてください。

○丸山副主幹

- ・ 平成6年から開始したが、その際栃木県では任意計画でのシカ保護管理計画が始まった年であった。計画の実施体制に基いて県・市町村と連絡調整会議を開催した。その中で科学的な計画を進めるためにはモニタリングが必要で、協力してほしい旨の打診をし、市町村にご協力いただいた。狩猟者へはお願いして書いていただく他なかった。面倒と

いう意見も当初あり、記入されなかった方もいたと思うが、継続することで書いていただけようになってきた。当初は抜けている市町村もあったが、継続することでデータが揃ってくるようになってきた。

(1) - 3

・「広域連携におけるモニタリングデータの活用」

広島修道大学人間環境学部 奥田圭 助教

○関東地方環境事務所

- ・ 色々な場所でのモニタリング方法があるという話だが、現在尾瀬国立公園では、ライトセンサスを用いて湿原にでてくるシカ、センサーカメラを設置して森林内のシカを調査して増減の傾向をみている。尾瀬・日光国立公園で糞粒法や区画法を使える可能性はあるのか。尾瀬でいえば夏にシカがいて、冬は雪で埋まってしまうので調査ができなくなる。気候・積雪状況が影響してしまうのだが、どういう時期に、こういったやり方の調査を行うことが現実味のあるデータが取得できるということなのか。

○奥田助教

- ・ 尾瀬の場合は既に様々な調査が実施されているので、それらの調査を継続することが重要だと考える。新しく調査方法を加えてコストを増やしていくよりも、今まで実施してきたことを継続し相対密度を比較することがよい。糞粒法や区画法等の新しい調査を加えていくことは、持続的な観点から考えてもよくないと思うので、縮小傾向にすることがよいと考える。

(2) 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（骨子）について

■質疑応答

○事務局

- ・ 持ち帰って確認していただき、今週いっぱいを目途にご意見いただければと思う。期間が短いようであれば後日事務局宛てにご連絡いただきたい。

○尾瀬山小屋組合

- ・ 骨子中 P14 事業目標で尾瀬国立公園ではシカの個体数を概ね半減させると記載があり、それが P7 捕獲の実施方針に結びついてくると思う。先の奥田助教の発表で、実効的・効率的に対策を進めるには、いつどこで捕獲を行うかが重要という話があった。尾瀬のシカは移動する話が以前からされていたが、いつどこで捕獲しているのか整理するとどのようなようになるのか。

○事務局

- ・ 尾瀬に生息しているのは移動型個体。冬場は日光に生息し、春～秋は尾瀬に生息している。そうした移動するシカに対して、どこかだけで捕獲をしても全体を減らすことはで

きない。移動の動きに合わせて、それぞれの時期にそれぞれのエリアで捕獲していくのがよいと考える。

その中でも、特に移動経路上の集中通過地域をシカが通過するタイミングで捕獲を強化し、尾瀬に上がる前の、特に春の出産前に捕獲できれば効率が良いと考えている。

尾瀬に上がった個体については尾瀬での夏の捕獲を進める。今年度から、尾瀬沼の捕獲実施エリアを拡大したので、尾瀬ヶ原・尾瀬沼での捕獲も引き続き評価し進めていきたい。

#### ○尾瀬山小屋組合

- ・ シカの移動状況をみながらそれぞれの場所で捕獲を進めるということだと思うが、春の移動についてはシカが身籠っていることもあるので、より効果的だということも聞いている。それぞれの地点の実績を押さえて、効果の高いところで重点的に進めていくという方針なのか。

#### ○事務局

- ・ 第1回広域協議会で発表したレビューの中で場所ごとの捕獲数は示しているが、年度によって捕獲数のばらつきもあり、ここだけやればよいといった場所は見つけられていない。課題として、例えば、尾瀬では春の雪解けのタイミングと捕獲実施時期が合わなかったことで捕獲数が伸びなかったこともあった。こうした課題を一つずつ解消して、できる限りそれぞれのエリアで捕獲圧を高めていくことが有効であると考えている。

#### ○大森主幹

- ・ P14の国立公園ごとの最終目標について、湿原と高山植生については影響がない状態にすることを目標にすると記載があるが、文面だけをみると、周辺の森林植生についてはシカの影響があっても容認すると読み取れる。
- ・ P16 自然環境への配慮について、錯誤捕獲の対応についての明記がある。これについて、シカ以外の野生動物、仮にイノシシが捕獲された場合どういった扱いになるのか。

#### ○事務局

- ・ 最終目標について、前回までの尾瀬のシカ管理方針ではシカを排除するという書き方になっているが、シカを完全に排除するのは現実的ではないため、湿原や高山植生といった脆弱な生態系への影響を排除するという書き方に修正した。森林植生のなかでも脆弱な場所・種も存在すると思うので、そういったところでは、湿原・高山植生と同様に進めていく。

#### ○奥村部長

- ・ 錯誤捕獲については、これまでイノシシが錯誤捕獲されたことはないが、今後起こる可能性はある。

#### ○事務局

- ・ センサーカメラで尾瀬ヶ原の林内にイノシシがいることが確認されている。イノシシも捕獲できるよう許認可手続きを実施していきたい。

○関東森林管理局

- ・ 捕獲や植生保護の実施方針について、実施主体が明記されているが、その取り組み方も直接的なもの、間接的なもの等様々あると思う。何を想定して記載有無の差異があるのか疑問があるので整理していただきたい。

○事務局

- ・ 現状そのエリアで取り組みをされている主な主体を記載させていただいた。事務局で十分精査できていないところもあると思うので、それぞれお気づきの点があれば事務局までお知らせいただきたい。

○関東森林管理局

- ・ P22に記載があるOCR様式は、環境省としての統一様式なのか、或いはこの尾瀬・日光の協議会だけの様式なのか。尾瀬・日光管内だけこの様式を使うという訳にもいかないので、統一的な様式でないのであれば、方針に載せないほうがよいのではないかと。様式が統一されるのであれば、それぞれの組織の中でも調整が必要になるのでご配慮いただきたい。

○事務局

- ・ 鳥獣保護法等に基づく統一的な様式ではなく、具体的な様式のイメージがあった方が解りやすいと思い、一般的に広く使用されている様式の例として、OCR様式を記載した。必ずこの様式でないといけないという訳ではないので、各県の対応状況を確認して、対応を検討させていただきたい。

(3) その他

- ・ 第3回協議会を11月27日、第4回を1月22日に予定している。今日と同じ時間に仮で設定しているが、議題や内容によって変更あればお報せする。第4回の会議でシカ対策方針の決定と次年度の実施計画案を検討する予定。
- ・ 次回11/27は、関係機関からのシカ対策の取り組み報告、案の検討をおこないたい。
- ・ 関係機関の取り組み報告の内容はなるべく早くにお報せするが、補足資料として捕獲頭数を取りまとめたものや、他に各機関での対策内容について報告事項があれば1~2枚程度作成いただきたいと考えている。

以 上